

囲碁を再開しました

丸山隆平（9組）

50年ほど振りにヘボ碁を再開した。きっかけは地元商店街のチラシ。近くに珍しく若い女性が経営していた「陽だまり」という囲碁カフェがあることを発見。通い出したのが3年ほど前。碁会所というと煙草の煙がもうもう。五月蠅^{うるさ}そうな爺さんたちで溢れているのが一般的だが、ここはお洒落なカフェを併設。女性客も多く、ネットで話題になっていたが1年前に閉店した。そこで日本棋院の「幽玄の間」というネット碁の会員になったのと、有楽町にある日本棋院の囲碁センターに通い始めた。

囲碁を始めたのは会社に入ってから。昼休みの休憩時間や仕事の合間に、皆、机の引き出しの上に碁盤を置いてゲーム開始という風景があちこちで見られた。

強い人が多かった。最初は9子を置いても勝てない状況だったが、同じく始めた同僚と勝ったり負けたりを繰り返し、そのうち、記者倶楽部では他社の人と、めったに勝てないが、一応、ゲームにはなるという状況だった。

当時私は郵政省の記者倶楽部に所属していたが、郵政省の役人との対抗戦の末席にも加わった。その後、仕事が変わったこともあり、最近までは日曜日にNHK杯の実況を見る程度だった。囲碁センターでは、級位者コースが週4日開かれていて、参加者はほとんど50歳以上。女性が多い。90近い女性とも知り合いになった。但し、腕前の方は相変わらずの“ざる”。なかなか強くなれない。

以上